

---

# HeroeZ 第一章

愛の戦士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Heroez 第一章

### 【Nコード】

N9274X

### 【作者名】

愛の戦士

### 【あらすじ】

かつて地球は“ともだち”によって支配され、人類滅亡の危機に瀕していた。しかし、多くの英雄が一齐に立ち上がり、世界は救われた。その後英雄達は解散し、各々の「正義」を貫き、平和を見守っていた。それから50年近く経ち、「英雄を立ち上がらせた、真の英雄」だった、かつての少女は、「神の国」から追い出された、金色の少年に出会う。これは、その少年が「せいぎのみかた」に憧れながら、少しずつ成長していく物語。

WARNING

この作品は作者が影響を受けた作品を元としながら自己解釈し、尚  
且つ、自分なりに設定などを再構築したものです。御注意下さい。

## 第0話 始まり(前書き)

初めまして!!!

初めて小説なるものを書かせて頂きました愛の戦士でございます

――(・ー・)カタカタ

どうぞよろしく願います!!!

このHeroeZはわたくしの完璧な妄想の権化ですwwww  
それでも楽しんでくれたらとおもいます。

とゆうか最初の発端みたいところで意味不明かもしれませんが、  
何卒願います

ではどうぞ

## 第0話 始まり

目が覚めた。  
でもまっくら。

もう一度目を閉じてみた。

まっくら。さっきと変わらないのだ。  
それもそうだの。当り前だの。

だから目をちゃんと開けてみた。  
延々と続く黒。

上も下も右も左も分からぬがわたしは倒れているらしい。  
…。それより『私』は誰なのかの？  
たしかわたしは

『……………!……………!』

『キャ ア アアアー ……!』

『痛い い痛いああッッ!! けて!!』

『おいッ、邪魔だど ……!』

『やだ、だヤダッッ! にたくない、死にたく 死にたグボエ

……』

『持ち場に れッ! 列を立て直 のだ!』



なんなのだ!?

あのおっついのと痛いのとうるさいのとぐらぐらするのは!?

あの大きくてこわいものはいったい…!?

それになぜわたしがあんなことを言われねばならぬ!?

なぜあんなビリビリするのをぶつけられねばならぬ!?

わたしは、わたしは、わたしは……又?

「ア、アレ…?体が…」

動かぬ。ピクリとも動かぬのだ。

それどころか体じゅうが痛いのだ。

「うう…。いたいのだ…。苦しいのだ…。…怖いのだ」

息を吸うのも苦しいのだ。一人は怖いのだ…。だれか…、助けて…。

お兄ちゃん…。

「…?ウ又?」

光が見える。そしてそれが徐々に大きくなるのが分かる。

「た、助け…」

徐々に大きくなる光

必死に助けを請う彼《それ》

だがそれは、

「又アツ?」

(アレ《…》は…。あのビリビリするものなのだ!?)

彼《それ》の顔は恐怖に歪む。

逃げようと必死に這いつくばって動こうとする

しかし、その身は既に死に体。動けるものではない。

だが、

「フンツ…!!又オオオオアアアツアアアア!!」

恐怖のあまり、幼い身ながらアドレナリンでも出たか。

彼《それ》は動く。

その姿は無様で、子供ながらひどいものだが、

必死だった。

ただただ怖いと思うものから逃げたくて必死だった。

しかしそれも手負いの、それも死にかけの獣の足掻き同然。

閃光は、金色の輝きはすぐそこまで迫っていた。

「ウ、ウヌウ……」

(も、もう動け…な、)

金色に輝く荒々しき閃光

まるで神の雷霆の如きそれは、金色の髪と黒いマントを身に付けた少年を飲み込んだ。

そして少年は見た。

しかしそれはただの電光にあらず。

神話・伝説の中でも最強レベルの実力をもつ、それは

これは…

(…龍?)

そして少年は意識を手放した。



『生きよ。今は唯生きるだけでいい。その後《のち》力をつけよ。  
我が器よ』

「…しまった。つい話し込んでしまったな」

辺りは一面暗闇。風により音を立てる雑木林。月の光のみが森を照らすなか、軽自動車のライトが道なき道を照らし走る。

その乗り手である彼女は初音島にいる旧友の家に遊びに行き話し込み、ついでにと夕飯を食べさせてもらい、その後また延々とダべつていたため、只今AM01:30の時間に帰宅中と至ったのである。

「どうせなら泊まればよかったかな。あいつもそう言ってたし…。  
失敗したかな。」

確かにこの時間と道具合では泊まった方が正解だっただろうが、家にある植物の世話や仕事、それに何より昨日家に訪ねて来た伝説級の人物の相手をしなければならなかった。…それを考えると少し頭が痛くなった。彼のことだ。気配を殺しながら極力静かに家に入ろうとしても間違いない気付き、あの軽いのか紳士的なのか判断に困る態度で自分に説教するだろう。…70にもなつて説教を受けるとは、なかなかシニールだが彼の生きた歳を考えれば自分など赤ん坊も同然である。

なにせ2000年前に人類を魔の手から救い出す前から、想像もつかない魔界《せかい》で暴れ回り、英雄視されていたのだからかなりの

「…あれ？月が…」

気が付けば月は隠れ、雲が出ている。この女は真つ暗闇に怯える程度胸は細くないが、次の瞬間に展開された光景に目を見開いた。またたく間に雲が増え、七色の宝石のような美しい輝きを放つ。と、思ったらその輝く雲から稲妻が何条も走り始めた。

「あ。あれって…。ちよつとちよつとちよつとちよつと!!!」

普通の人間なら驚いて、逃げ出すか、少し離れた場所でカメラで撮影するか、若しくは警察やら何やらに連絡を取るのが、普通に暮らしている真つ当な人間………の反応だが、生憎と彼女は赤ん坊の頃から普通の暮らしもしてきていないし、真つ当な人間でもないため、愛車で間もなく起こりうるであろう現象に対処する為予測しうるポイントに近づく。

あの光景は何度か見たことがある。だからこそおかしい。その道は塞がれてしまったはずなのに…。

そして、竜巻のように雲が下に向かって渦を巻く。光に包まれた物体が地表に向かって、一直線に落下してゆく。

それは彼女のすぐ50m先で起こり、落下地点に何があるか知っていたから、車から降りて歩きづらい獣道を全速力で走る。

その脚力は70に近い老婆のものとは思えない。

やがて着いた先は開けており、星空が見上げられる場所。既に雲は晴れ、月は顔を出し美しい光を放っている。地面には円が描かれており、その中には文字と思わしき線状の模様が描かれている。そしてその中心には

「……………、大変。」

誰かいるとは思った。だからその誰かと話す―― ・ ・ 為にここまで走ってきたのだ。

しかしそこにいたのは、否そこに横たわっていたのは、金髪で高級そうな大きめの金のブローチが目を引く、小さい体を隠すほどの大きめの黒いマントに身を包んだ、幼い黄金の少年だった。

## 第0話 始まり（後書き）

え〜どうだったでしょうか（＾＾）

さすがにこれで終わりじゃありません。

次には必ずもっと良いものを書いてみせます。

しかし、いまの自分には正直こんな所ですが頑張ってみせます。

では（＾＾）／

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9274x/>

---

HeroeZ 第一章

2011年10月26日01時09分発行